

ニュージーランドスルメイカ・オーストラリアスルメイカ ニュージーランド海域

Wellington Flying Squid, *Nototodarus sloanii* & Gould's Flying Squid, *Nototodarus gouldi*



ニュージーランドスルメイカ

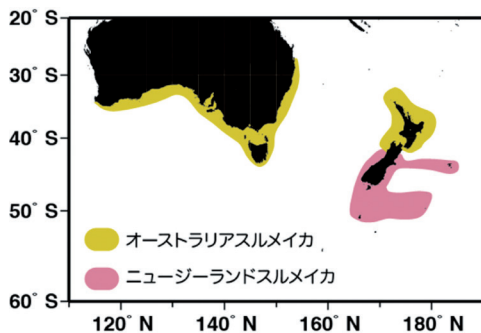


オーストラリアスルメイカ

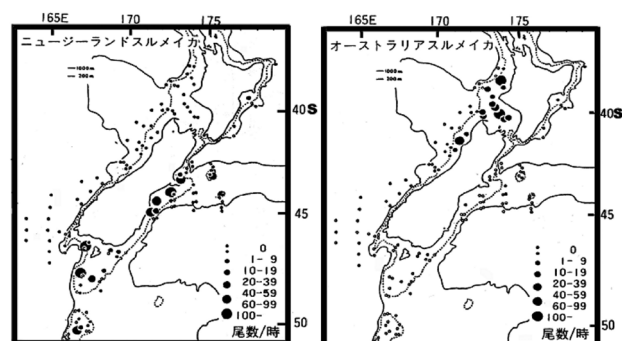
管理・関係機関
ニュージーランド政府
最近の動き
ニュージーランド政府が自国水域内で操業する漁船を原則として自国船籍船に限るとの法改正を行ったことから（2014年8月7日 NZ 議会通過）、2016年5月1日以降、操業には NZ 船籍への転籍が必要となった。これを受け、当海域での我が国のいか釣り船は、2016年漁期（2015年12月～2016年4月）を最後に1隻が操業した。
生物学的特性
<ul style="list-style-type: none"> ■体長・体重：外套長 30 cm、体重 300 g 程度 ■寿命：1 歳 ■成熟開始年齢：約 6～8 か月 ■産卵期・産卵場：周年；主に冬、ニュージーランド南島南岸及び東岸の陸棚上（ニュージーランドスルメイカ）、南北両島間の西岸陸棚上（オーストラリアスルメイカ） ■索餌場：陸棚上 ■食性：中深層性魚類、オキアミ類、いわし類 ■捕食者：海鳥類、アザラシ類、さめ類等
利用・用途
いか飯、焼するめ、刺身（塩辛を除く、日本のスルメイカと同様な加工原料）

漁業の特徴
ニュージーランド海域で漁獲されるスルメイカ類の総称“ニュージースルメ”（NZ スルメ類）は、ニュージーランドスルメイカとオーストラリアスルメイカの2種からなる。漁業資源として 1960 年代までは未開発であったが、1970 年代から我が国により開発が進められ、1977 年から旧ソ連など諸外国も参入し、1980 年代には我が国主体に旧ソ連、台湾、韓国、ニュージーランドのいか釣り、トロール両漁業により多く漁獲されるようになった。1990 年代以降、ニュージーランド政府の規制強化等により、外国船の入漁は減少し、ニュージーランドの漁獲が増加した。2000 年代末以降は、ニュージーランドのほか、我が国と韓国がいか釣りにより漁獲している。

漁獲の動向
全漁業国による総漁獲量は、1970 年代の資源開発初期は我が国による 2 万トン程度であったが、諸外国が参入した 1977 年には 5 万トン以上に増加し、1980 年代は 8 万トン前後で推移した。その 6～7 割は我が国が占めた。ニュージーランド政府の外国船入漁規制強化後の 1990 年代以降 2003 年までは 3 万～12 万トンで大きく年変動して推移した。我が国漁獲量の占める割合は 2 割以下に大きく低下し、ニュージーランドの漁獲量が大部分を占めるようになった。2004 年に総漁獲量は急増して 14 万トンに達したが、それ以降は減少傾向が続いており、2014 年は約 2.4 万トンであった。



ニュージーランド海域における NZ スルメ類 2 種（ニュージーランドスルメイカ *Nototodarus sloanii* 及びオーストラリアスルメイカ *Nototodarus gouldi*）の分布域（Martin et al. 1985 を改変）



ニュージーランド海域における NZ スルメ類 2 種の幼イカの分布域（Uozumi and Forch 1995）

資源状態

総漁獲量が最近 5 年間平均では 4.7 万トンであり、過去 20 年間の平均の 7.5 万トンを下回っていることから、資源は減少傾向にあると示唆される。
我が国いか釣り船の CPUE は、最近 10 年間では 2～11 トン/日前後で平均 5.1 トン/日であり、2015 年は 4.6 トン/日で平均を下回った。1987～2015 年の CPUE の最低（2014 年 1.6 トン/日）－最高（2012 年 11.1 トン/日）の差を 3 等分して低・中・高位の水準に分けると、2015 年の資源水準は低位であったと判断される。

管理方策

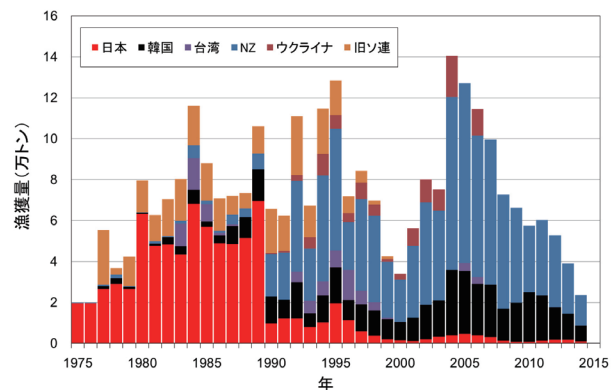
ニュージーランド政府は、当初トロール漁業は漁獲量を規制し、いか釣り漁業は努力量（隻数）を規制した。しかし、同じ資源に対する管理方策の統一を行い、現在ではいか釣り漁業にも漁獲量規制を実施している。現在、本資源は北側の SQU 10T、東西の SQU 1J と SQU 1T 及び南のオークランド諸島の SQU 6T の 4 ストックに個別の商業漁獲可能量（TACC）が決められている。イカ類のような単年性の生物資源では MSY の推定は不可能で、その必要もなく、また、現状の漁獲規模では将来の加入量や資源量に影響を与えないとの考えから、TACC はここ 10 年間に大きな変化はなく 12.7 万トンである。TACC に基づき配分される ITQ（個別譲渡可能漁獲割当量）は、DWG（Deepwater Group Limited）が管理する。なお、南部海域のオークランド諸島の SQU 6T ストックは、トロール船によるニュージーランドアシカの混獲数の限度頭数を 2006 年以降 68～113 頭と毎年設定している。

資源状態のまとめ

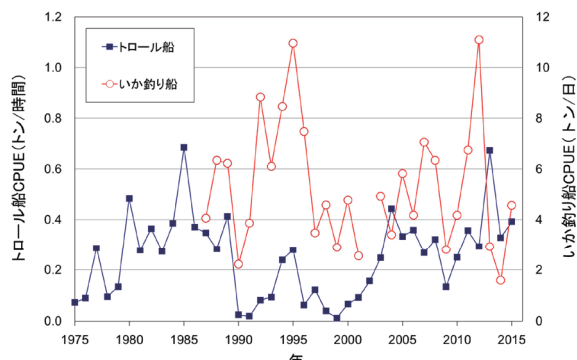
- 漁獲動向から資源は減少傾向。
- 我が国いか釣り船 CPUE から資源量水準は低位と判断。

管理方策のまとめ

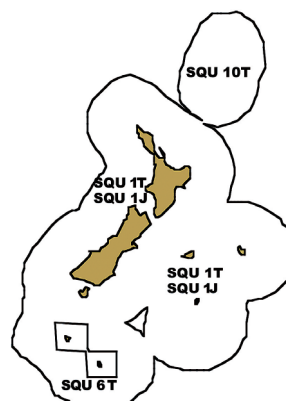
- 東西南北の海域の 4 つのストックについて個別の TACC を決定。
- TACC に基づき配分される ITQ を DWG が管理。
- 鰭脚類のトロール船による混獲を規制。



NZ スルメイカ類の国別漁獲量（データ：FAO 2016）



ニュージーランド海域における日本のトロール船の CPUE（トン/時間）及びいか釣り漁船の CPUE（トン/日）の経年変化
2002 年（2001/02 年）漁期にはいか釣り漁船は出漁しなかった。



ニュージーランドの NZ スルメイカ類の管理海域

ニュージーランドスルメイカ類 (ニュージーランド海域)の資源の現況(要約表)	
資源水準	低 位
資源動向	減 少
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	2.3 万～6.0 万トン 最近 (2014) 年：2.4 万トン 平均：5.5 万トン (2010～2014 年)
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	856～1,789 トン 最近 (2014) 年：920 トン 平均：1,322 トン (2010～2014 年)
最新の資源評価年	—
次回の資源評価年	—